

オーディオ実験室収載

バッハ盤を聴く(3)(HP 収載) —最新アナログシステムでの試聴(3)—

1. 始めに

前報(2)に引き続き、バッハのアナログ盤を聴き直していきます。

2. バッハのアナログ盤の試聴方法

試聴システムは LINN LP-12 の再構成(35)および ThorensTD124 の再構成(1)で報告したとおりであり、今回も 1970 年代後半以降の新興レーベルを ThorensTD124 で聴いていきます。その後、さらにアンチスタティックの効果(1)とアンチスタティックの効果(2)で報告したようにレコードアンチスタティックも加わっています。

Camerata TOKYO CMT 1006

J.S.バッハ 無伴奏フルートのためのパルティータ イ短調 BWV1013
金晶国 (フルート)

シャルランレコード SLC-24

J.S.バッハ オルガン協奏曲 イ短調 BWV593
オルガン協奏曲 二短調 BWV596

アルベルト・ゼッダ指揮ミラノアンジェリクム室内合奏団

3. バッハのアナログ盤の試聴結果

Camerata TOKYO レーベルの無伴奏フルートのためのパルティータは、**ZANDEN** のリストによれば、**EMI**、**R**、第4時定数 **Mid** ですので、この条件で聴いていきましたが、ぴったりの条件でした。透明感のある音で、息継ぎから環境音までリアルに捉えられ、心にしみわたるような演奏です。

シャルランレコードレーベルのオルガン協奏曲は、シャルランレコードのイコライザー特性は **ZANDEN** のリストにもありませんので、一から聴いていきます。この曲は、原曲のヴィヴァルディのヴァイオリンを中心としたアンサンブルの調和の幻想からのオルガン曲への編曲です。シャルランレコードは、ダミーヘッドを使用したワンポイント録音で名声を博したレーベルです。

RIAA、**N**、第4時定数 **High** で聴き始めましたが、広がりが強すぎて焦点が定まりませんので、位相反転の **R** にしました。イコライザーカーブをいろいろ替えてみましたが、**TELDEC**、**Columbia**、**DECCA** は強調感があります。**RIAA** か、**EMI** か、判断に迷うところですが、**RIAA** の方が自然で、第4時定数も **Mid** にするとオルガンの響きも豊かになります。この条件で聴いていくと、ワンポイント録音らし

く自然でクリアーな音が楽しめます。イコライザー特性は、図らずも同じフランスのレーベルである **ERATO** と同じ条件になりました。

4. まとめ

ThorensTD124 の再構成(1)とアンチスタティックの効果(2)の結果をトレースでき、二つのレーベルのイコライザー特性が特定できました。

以上